

**交流人口の拡大による
新しいまちづくりプロジェクト**

八雲町には古くから地域に伝わる伝統的な神社祭りだけでなく、若者や地域住民の発案で始まった新しいタイプのまつりやイベントが多数あります。その代表的なものが、八雲山車行列や落部公園つつじ祭り、熊石あわびの里フェスティバルです。

八雲山車行列は、昭和57年に若者の団体「若人の集い」のリヤカーを台車にした4台の山車から始まりました。年々規模を拡大して、今では30台前後の山車が登場します。町民手作りの色鮮やかな山車が、夏の夜、八雲町のメインストリートを練り歩く圧巻絵巻に、町内外から参加者や見物客が多数訪れます。

また、6月初旬の落部公園つつじ祭りは、遅咲きの桜と順次咲き出すつつじが同時に見られる事もあり、春を彩る祭りとして人気です。

観光と物産の振興策としては、商業のみならず、基幹産業である農林漁業を含めた産業全体の活性化を目指すのが、「交流人口の拡大による新しいまちづくりプロジェクト」です。八雲町が官民一体となって取り組むこのプロジェクトは、入込客数が60万人を超えた噴火湾パノラマパークと平成27年度末に函館開業となる北海道新幹線という2つの追い風を活かし、八雲を訪れる交流人口を増やすとともに地場産品の販路拡大を目指すものです。その中核を担う一般社団法人八雲観光物産協会は、

力を発信していくとともに、特産の農畜産品、ホタテなどの地場食材を活用した食の新メニューを開発したり、農業者・漁業者とも連携しさまざまなプログラム開発に着手しています。

ます。また、それらを組み合わせた着地型観光の商品化を目指してモニターツアーを実施するなど、取組みを進めています。



●**八雲神社例大祭と八雲まつり歩行者天国**
八雲神社は尾張徳川家の旧家臣入植者の故郷名古屋にある、由緒正しい熱田神宮の分霊をまつる、全国でも唯一の分社。6月の例大祭では神輿渡御が町内を練り歩き、同時に開催される八雲まつり歩行者天国では松前神楽の舞などが披露される。



●**交流人口の拡大による新しいまちづくりプロジェクト／まちあるき**
まちあるきは「スペシャルはびあ産直市」に合わせて実施。各商店に展示されている木彫り熊作品を見学し、尾張徳川家とゆかりの深い八雲のルーツをたどる。また、モニターツアーではバター・チーズ作り体験、船釣りも体験。新ご当地グルメ「二海カレー」も好評。

●**落部公園つつじ祭り**
落部地区で毎年6月の第1日曜日に開催。噴火湾を望む落部公園には、10種類、約5,000本のつつじが順次咲き誇る。つつじ祭りは、特設ステージで歌謡ショー、ジャンボビンゴ大会、抽選付き餅まきなどのイベントが催され、大いに賑わっている。



●**八雲山車行列**
毎年7月の第1金・土曜日の2日間にわたって開催される、八雲町の真夏の夜を彩る一大イベント。職場や町内会、地域の団体など各参加団体が製作した山車が30台ほど参加し、踊りや太鼓などが賑わいに花を添える。斜里町「しれとこ斜里ねぶた」、沼田町「夜高あんどん」とともに北海道三大あんどん祭りの一つとして知られている。

ます。また、それらを組み合わせた着地型観光の商品化を目指してモニターツアーを実施するなど、取組みを進めています。

ます。また、それらを組み合わせた着地型観光の商品化を目指してモニターツアーを実施するなど、取組みを進めています。

八雲まつりに出店しています。30年以上の経験から八雲町の印象

毎年八雲町を訪れ、30年以上の経験から八雲町の印象

八雲まつりに出店しています。30年以上の経験から八雲町の印象

●**インタビュ**
坂入尚文さん 船細工師
全国的にも数少ない船細工師。東京芸術大学彫刻科出身の異色。日本見世物学芸の事務局長も務める。

●**スペシャルはびあ産直市**
スペシャルはびあ産直市でのスコープ三味線ライブとホタテ釣り。

師さんや農家の仕事も気にながら商売をしています。八雲では居酒屋屋さんで知り合ったマッサー師さんと仲良くおつきあいをしています。いつも船細工を幾つか買ってくれるんです。都会は大人の客が多いが、やはり子どもが可愛いですね。八雲の子どもはすれもない気がします。以前は山車行列とやかも祭りが一緒で、それは賑やかだった。祭りの分前で、車に乗ってくるようなお客さんが減ったようだ。以前の賑やかさが少し懐かしいね。あんどん祭と切り離したことで客が少なくなつたように思うのがちょっと残念。毎年宵宮前日から5日間のお付き合いだけど、祭を回る船細工師は絶滅危惧種で北海道のお祭りではわたし一人です。いつまでも八雲に来られたらと思います。

●**モニターツアーバター・チーズ作り体験**
(ファームメイド遊楽部館)